

LMcorsa

60  **H.YOSHIMOTO**
 **D.FARNBACHER**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.2 Fuji GT

5月4日 | 天候：晴/雨 | コース：富士スピードウェイ | 路面：ウェット/ドライ(路温:24.5度)

Final Day Summary

決勝レースは2戦連続の降雨中断で荒れた展開となるが22番手からスタートした SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は 怒濤の追い上げをみせて9位でフィニッシュしてポイントを獲得

Final Day

ゴールデンウィーク開催が恒例となっている SUPER GT 第2戦「FUJI GT 500km RACE」の決勝レースが、5月4日(土)に富士スピードウェイで実施された。

前日の公式練習と予選では、持ち込まれたタイヤとのセットアップが合わずに本来のパフォーマンスを発揮することができなかった SYNTIUM LMcorsa RC F GT3。公式練習と予選はともに 22番手となり、予選 Q2 への進出を逃してしまった。



決勝レースが行なわれた4日は、早朝から晴れ渡りサーキットから富士山を眺めることができた。しかし、午後に入ると富士スピードウェイは雲に覆われるようになり、12時55分から13時15分までのウォームアップランはドライコンディションだったものの、いまにも雨が降りそうな空模様となった。

ウォームアップランは吉本大樹選手とドミニク・ファーンバッハー選手の2人が SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 のステアリングを握って10周を走行。500kmの決勝レースに向けて最後の確認を行なった。

ウォームアップ走行が終わるとスタート進行が始まり、5万6000人の観客の前にGT500の15台とGT300の29台の合計44台が整列する。13時半過ぎにグリッドウォークが始まると心配されていた雨が降り出す。

Final Day

14時30分のスタート前になると雨は本降りとなり、予定されていたパレードラップは中止となり、2戦連続でセーフティカーが先導してのスタートとなった。

セーフティカーランは1周のみで、2周目に44台のマシンが一斉にスタートを切った。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだ吉本選手は、すぐに1台をパスすると4周目にも

1台を抜いて20番手に浮上する。ウエットコンディションの性能の高さは公式テストなどでも実証されていて、その実力を随所で発揮した。8周目以降は1周につき1台をパスする圧倒的なスピードをみせ、12周目には16番手まで順位を上げる。しかし、雨量が増えたために再びセーフティカーが導入される。4周に亘ってセーフティカーランが続くが、コンディションの悪化が予想されたために赤旗が提示されてレースは中断となる。



30分の中断を経て15時30分過ぎにリスタート。吉本選手はまさに水を得た魚のように先行車をパッシングしていく。20周目に10番手まで浮上すると、GT300クラスの中でもトップのラップタイムで周回する。25周目には8番手、29周目には7番手となり、実にスタートから15のポジションアップとなった。しかし、雨量が減るとラップタイムが鈍ってくる。レコードラインが乾いてきたと判断したチームは、37周目に吉本選手をピットに呼び戻す。

このピットインでスリックタイヤに交換し、ファーンバツハー選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込む。全車がピットインを終えていなかったために16番手でコースに復帰するが、

42周目に上位陣が1回目のピットを終えると7番手となった。コースは完全なドライコンディションとなり、ライバル勢が猛威を振るう。それでもファーンバツハー選手は1分39秒台のラップタイムでポジションを死守。しかし、50周目を過ぎると劣勢な戦いを強いられる。ラップタイムに勝る後続のマシンがテールトゥノーズで迫り、60周目には9番手までポジションを下げてしまう。



今回の決勝レースは500kmの長丁場で、2回のピットストップが義務付けられているが、1人のドライバーがドライビングできる距離が2/3までと決まっているので、まだピットストップを行なえない。

Final Day

ファンバッハー選手は、巧みに後続を押さえながら 70 周目に 10 番手でピットに戻った。

チームは 4 本のタイヤ交換と給油をミスなく俊敏に終わらせ、最後のスティントを吉本選手に託す。16 番手でコースに復帰すると 74 周目には自己ベストタイムの 1 分 39 秒 172 をマークして上位を目指した。82 周目に全車が 2 回目のピットストップを終えた時点で 9 番手とポイント圏内を走行。87 周目には先行する 1 台をパスして 8 番手に浮上する。しかし、ポイント圏内を争う 5 台が SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 を先頭に数珠つなぎとなっていて、一瞬の間も見せられない攻防となる。吉本選手は最後までラップタイムを落とさず 8 番手をキープしているが、ファイナルラップとなった 103 周目に惜しくも一台に抜かれてしまい 9 位でチェッカーを受けた。

予選では本来のパフォーマンスが発揮できずに困難な状況に陥っていた LMcorsa。しかし、決勝レースではウエットコンディションに恵まれたこともあったが、2 人のドライバーとチームがひとつのミスもなく走り抜いたことで、22 番手から 9 番手まで追いつけて 2 戦連続でポイントを獲得することとなった。



Team Comment



Director :飯田 章

500kmの決勝レースを無事に終えて、まずはホッとしています。22番手からの追い上げとなったのですが、2人のドライバーの頑張りとピットストップをミスなく送り出したメカニックなど、チームが一丸となったことで9位になれたと思っています。昨日の予選終了後には、想像もできなかった結果なので良いレースウィークとなりました。しかし、常にパフォーマンスを発揮できるようにしなければならないので、課題はあります。次戦の鈴鹿までに問題点を洗い出してシーズンを戦っていきます。



Driver :吉本 大樹

序盤のウェットコンディションはチームにとってめぐみの雨となりました。ドライではライバル勢に劣っていたので、終始ドライコンディションだとこの結果はなかったと思います。最後は1台にパスされて9位となって悔しさはありますが、2戦連続でポイントを獲得できて良かったです。それと、助っ人として参戦してくればドミニク選手は、厳しい状況だったのですがポジションを守ってくれてチームに貢献してくれました。次戦の鈴鹿サーキットは、テストでも好感触だったので、さらに上位を目指して準備を進めたいです。



Driver :
ドミニク・ファーンバハー

まず始めに素晴らしい仕事してくれたチームと吉本選手に感謝しています。戦略やピットタイミング、ピット作業など、どれもミスがありませんでした。昨日の予選は苦戦しましたが、セットアップを変更したことや雨が降ったことも好結果につながりました。私のスタントはドライコンディションでレインに比べてやや劣勢でしたが、それでもポジションを大幅に落とすことなく走れました。チームに加わった目的がシリーズポイントの獲得だったので、その役割を果たせて嬉しいです。

LMcorsa